史料紹介

研修部

「石垣原」　三浦梅園

山ハ圍ミ二舊国ヲ一鬱岩嶢シ
遺鏃空シクレ原ニ鐵半バ消ユ
鬼哭夜随ヒテ二風雨ニ一起コリ
冤魂秋入リテ二海濤ニ一驕シ
分レテ争フ二覇略ヲ一指揮失セ
割拠雄図ノ形勢遥カナリ
烈士ノ墳前ニ停メテレ杖ヲ立テバ
歳寒ニ松老ヒテ草粛々タリ

山は旧国を囲み鬱岩嶢し
遺鏃原に空しく鉄半ば消ゆ
鬼哭夜風雨に随ひて起き
冤魂秋海濤に入りて驕し
分れて覇略を争ふに指揮失せ
割拠雄図の形勢遥かなり
烈士の墳前に杖を停めて立てば
歳寒に松老ひて草粛々たり

鬱岩＝妨げる岩　嶢＝高く険しい
遺鏃＝残されたやじり
鬼哭＝死者幽霊が哭く
冤魂＝無実の罪で死んだ人の魂
覇略＝覇権と計略
雄図＝雄大堂々りっぱな計画
歳寒＝寒い季節になる

三浦梅園（一七二三～八九）

国東市安岐町富永の人。長崎に遊学、儒学と洋学の思想を調和して、宇宙の構造を説明する条理学を提唱し、『玄語』・『贅語』などを著した。その論は哲学・倫理・宗教・教育・歴史・文学・政治・経済をはじめ、天文・地理・医学・博物学など広範囲に及んだ。天球儀を作って天体観測を行ったり、人体構造への興味も示した。

ここに掲げた律詩は、一六〇〇年九月十三日に、大友義統軍と中津黒田孝高軍の間に戦われた「石垣原の合戦」の古戦場を旅した折りに、その感慨を詩に託したものである。